

東田小学校学校運営協議会令和5年（2023年）度

2023年（令和5年）12月2日（土） 会長挨拶 23-RO-5

東田小学校の地域には善福寺川が流れて極めて自然環境の良いところである。

五日市街道にかかる尾崎橋から上流は善福寺川緑地公園、そこから下流は和田堀公園となっている。この辺りは桜の季節になると多くの人が花見に訪れる名所となっている。

この善福寺川緑地一帯は快適な散策コースとなっている。たまたま10月21日杉並環境ネットワーク主催の【秋の帰化植物観察会】に参加した。

いつも散歩している両側岸辺のコースの川の土手には雑草が生えているなどという認識しかなかった。その時の86歳の女性専門家の説明によると、善福寺川公園では定期的に両側の岸辺は綺麗に雑草の除草が行われるが、河岸のコンクリートの岸辺の法面（のりめん）は年に一回位しか行われれないという。その時は尾崎橋から杉並児童交通公園の入口のある成田下橋までの短い区間を調査観察した。

川の土手の法面の石垣の隙間には雑草や灌木が繁茂している。その半分は江戸時代にオランダ人によって持ち込まれた欧州、アメリカからの外来植物、明治時代、戦後に持ち込まれた帰化植物だという。土の少ない石垣の隙間に桑の木が生えていることを教えてもらった。杉並区では戦後まで養蚕が行われており、鳥が桑の実を食べてその糞が実生として石垣の隙間に生えて桑の木となった。東高円寺に蚕糸試験所があったことを思い出した。

テニスコートへの石段の隙間には、小さなクニシキソウ、交通公園裏入り口にはピンクの綺麗なイモカタバミ、ススキ、オシロイバナなど20種の外来植物が繁茂している。前回の除草から半年以上の間の限られた時間と極めて狭い土手の空間にこれらの植物が生えている。石垣の隙間という厳しい環境条件において多品種の雑草、灌木が生存競争をして目前にある。何気なく散歩しているいつもの道に外来帰化植物が在来種と共生している。これらを認識して初めて＜植物の実在＞の生態学を知った。見事に、植物：生物の＜棲み分け＞が展開している。これらはまもなくすっかり除草、伐採されてしまう。

それでもこれらの植物は種となって空中に舞いながら、水に流されて、鳥の餌となって再び地上のどこかに落下し再生する。

このように東田小学校の近辺には善福寺川という恵まれた自然環境があるので是非とも教室から出て自然；植物の生存競争の実態を直接子供らに観察させて【感動】を与えてみる必要があると思う。デジタル映像と実物の世界の決定的な違いを体感してもらえらる野外授業を実行してもらいたい。

以上

小原理一郎